雄交尾器形態は属全体としてよくまとまっているが，明白な差異がある．私は朝比奈博士が，*jezoensis* の♂と同日に同所で採集された大型の3♀♀も調べた結果，一応これらが *jezoensis* の♀と考えられる点もあったが，雌交尾器に *cinerescens* との明白なちがいをみとめられなかったので，今回は保留しておきたい．種 *jezoensis* の産地は現在のところ札幌付近に限られ，8月下旬から9月下旬にかけて出現するようである．北海道からの *lucilla* の記録は以上の処理によって一先ず抹消しなくてはならない．私はさきに対馬産の *T. oberthüri* Staudinger ツシマキシタヨトウを記録したので（本誌，12：45，1962），日本産のこの属は計5種となった．

ハマオモトヨトウの学名

我国の南岸地帯でハマオモトの害虫として有名なハマオモトヨトウの学名は，日本における発見以来 *Brithys pancratii* Cyrilli, 1787 として知られているが，私の最近の考えではこれは正しくなく，日本のハマオモトヨトウには *Brithys crini* Fabricius, 1775 を用いるべきである．元来上記の2種はきわめて近縁なもので，同一の起源をもち，*pancratii* が地中海沿岸とアフリカに分布するのに対して *crini* はインド，ジャワ，ベトナム，台湾などに分布しており，これが食草ハマオモトと共に北上して本州南岸沿いに房総半島に達しているものと理解される．最近ではこの両種を同一種として扱っている人もあるようで，South の "The Moths of the British Isles" の新版（1961, p. 199）には *crini* の名が使われている．（英国ではこの蛾はもちろん偶産蛾であるが，1933年に幼虫が多数見出されたという）．従って，この両種を同種とみるか否かには関係なく，日本のハマオモトヨトウには，より古い名 *crini* Fabricius を用いることが妥当である．種名 *crini* はもちろんハマオモトの属名 *Crinum* から由来するもので，ハマオモトヨトウには一そうふさわしい名であると云えよう．幼虫はインドでもよく知られており，Moore (Lep. Ceylon, 3: 14, pl. 145, f. 2, 1884) がすでにこれを図示している．

〔杉　繁郎〕

福井県でマイコトラガを採集

福田　久美[1)]

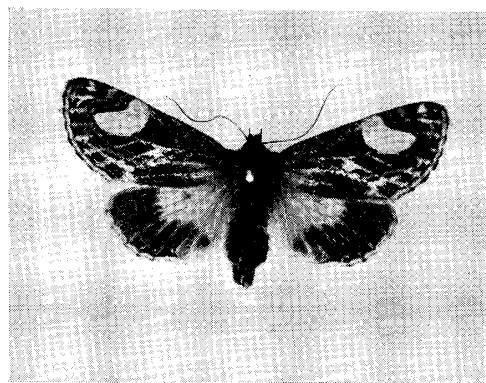
A record of *Maikona jezoensis* Matsumura in Honshu (Japan)

By Hisami Fukuta

Maikona jezoensis Matsumura マイコトラガは原色日本蛾類図鑑によれば4月下旬より5月上旬に北海道札幌[2)]で記録された稀種であるが，近年，杉[3)]及村木[4)]によって本州の新潟県が加えられた．更に本年岩田[5)]によって静岡県が記録された．今度筆者は，本種を拙宅誘蛾燈で得る事が出来たので，新産地として記録したい．

福井県武生市池泉町　8 V 1962　1♀

開張　44mm　　標本筆者所蔵

なおいろいろ御教示を賜った緒方正美氏に深く感謝する．

1） 福井県武生市池泉町

2） 緒方正美：原色日本蛾類図鑑，下，pp. 198—199, Pl. 119, fig. 2517. 1958.

3） 杉　繁郎：マイコトラガ *Maikona jezoensis* Mats. 本州（新潟県）に産す．蛾類同志会通信，Nos. 14–15, p. 136. 1958.

4） 村木弘昌：マイコトラガ又新潟県で採れる．誘蛾灯，2 (3)：75，1960.

5） 岩田一彦：マイコトラガを伊豆大滝温泉で採集．蛾類通信，No. 27, p. 134, 1962